

2013年8月21日

松江市教育委員長 内藤富夫 様
松江市教育長 清水伸夫 様

原水爆禁止島根県協議会代表理事 西尾幸子

申し入れ書

「人間らしく死ぬことも生きることも出来なかった」という被爆の悲惨な事実を受けとめ、私達は核兵器廃絶と被爆者援護を求めて、運動を続けています。

松江市では、今年も原爆パネル展の開催や国民平和行進へのご賛同で、ご協力をいただき、たいへん励まされました。心から感謝いたします。

戦後68年、戦争や原爆を体験した世代が少なくなっている今、戦争の歴史的事実、原爆被害の実相を次の世代にどう引き継いでもらうかが、大きな課題になっています。

そんな中で、被爆体験を描いた漫画「はだしのゲン」が、学校図書館での閲覧や貸し出しを中止するよう要請されていたことが報じられました。

多くの子供たちが「はだしのゲン」を読むことで、はじめて「原爆」を知り、広島への修学旅行で、日本が唯一の被爆国であり、核兵器は人間と共存できないことを学んで帰ります。国際的にも「はだしのゲン」が大きく評価されています。

市議会で不採択となったものが、何故、市の校長会で、市教委から要請され、小・中学校で閲覧制限など実施されたのでしょうか。

「はだしのゲン」が閲覧制限されたことと、そこに至る経過は、全く納得がいかず怒りを覚えます。

すぐに制限を解除するよう、申し入れます。

以上